

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0371000134
法人名	医療法人 勝久会
事業所名	グループホーム つばき
所在地	岩手県陸前高田市高田町字中田69-2 (電話) 0192-55-7370

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	12月25日

【情報提供票より】(19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年 4 月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	7.15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1	1 名	要介護2	5 名			
要介護3	3 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	85.5 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松原クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>小高い丘の中腹に立地し、りんご園などに囲まれ、見はらしも良く、落ち着いた環境にある。隣接して、もう一つのグループホーム、老人保健施設のほか福祉関係支援施設もあり、緊急時の24時間対応、支援体制も整えられている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の助言にもとづき、法人の運営推進会議で問題を発表し、その解決策について検討し改善を図っている。また、グループホームの月1度の定例会(19:30~22:00)でも話し合いが行われサービス向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価結果を職員間で自由に出し合い、意見交換の中から質の向上がはかれるよう努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>最近の主たる内容は、施設の立地条件からして津波被害の危険はないものの、地震、火災等の場合、地域防災という観点からどうあればよいか、検討を深めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情の申し出はない。相談的なものは時々ある。特に接遇に対しての心くばりを大切にするについて、運営推進会議等で話し合いが重点的に行われている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域密着のあり方について、現在模索中である。今後は地域へ開放的にかかわって行きたいと思考中である。特に運営推進会議にて地域住民代表等に協力を呼びかけている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、理念の中に「地域との共生」を取り入れ、「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」をモットーにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」は、玄関、事務室、ホール等に掲示しており、日常のミーティングでも、その内容を確認し合いながらサービスに当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物等で出かける時は、出来るだけ地域との交流が図れるように努めている。法人内の行事等には積極的に参加出来るように配慮されている。	○	利用者が、全体的に高齢なため、それに伴い介護度が高くなりつつあり、外部との接触が困難になってきている方も多いが、元気な方もおられるので、さらに地域との交流を深めていけるように声掛けを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の助言に基づき、運営推進会議等で話し合いが行われ、一層改善が進められている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、隣接するグループホーム「りんご」と共催で、家族代表、地域代表、民生委員等を交えて、年6回は話し合いが持たれ、サービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームが、市町村の管轄になってからは、市との密接性が増し、意見交換が絶えず行われるようになった。利用者の中に成年後見人制度を使われている方、生活保護の方もおられるので、連絡を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理のマニュアルが不完全と思われたので、法人内の5事業所で統一した書式を作り遺漏のないようにしている。利用者の生活状況等は、家族の来所時、又は電話等により絶えず報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付記録文書も用意しているが、これまで苦情受付の実例はない。接遇の改善については、運営推進会議の中心議題になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特にグループホームでは急激な環境の変化は不相当と考え、職員の異動も極力避けている。特に、家族同様に、互いに情がうつると、多少なりとも影響がある為、細心の注意を払っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修とも、本人が希望すれば多く受けられるように配慮されている。ただ、限られた職員数なのでバックアップ体制の工夫が必要である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、沿岸のグループホーム協会及び、法人内の研修には積極的に参加出来る体制にある。法人内研修では課題ごとに順番に参加するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族及び本人の意向を最大限尊重するようにしている。利用当初は出来るだけ、家族が寄り添うようにして頂き、不安感を持つことのないよう協力して貰っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの生活歴を尊重し、趣味や過去の仕事のことを思い出す中で、能力を引き出す工夫をし、認知症が進行しないよう努めている。高齢な方々であるので、職員が積極的に働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ドライブ時にも自宅のある思い出の地、周辺を廻るなどの工夫がなされ、墓参なども勤めている。最近、ホームを自宅同様に思い、今年度は盆、正月に帰宅を希望する方が一人もいなかった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の書式については、東京センター方式に改めていきたい。介護計画は、職員や家族の意見を聞き、こまやかな配慮がなされている。尚、計画見直しの基になる業務日誌の様式は職員の出勤、利用者の生活状況、服薬チェック、バイタルチェックなど、あらゆる記録がひと目でわかる素晴らしいものであった。	○	東京センター方式の書式を尊重しながらも、事業所として利用しやすい方式への工夫も必要と思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に策定されるが、必要により随時追加、削除され、実態に合った形に整えられている。その際は職員、家族の意見が最大限活かされるようにしている。	○	東京センター方式を踏まえ、更に実態に合った形になるよう努力することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設の居室の余裕にもよるが、条件を整えばショートステイも取り入れていきたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のそれぞれのかかりつけ医、事業所に関係する法人内の老人保健施設、理事長の経営する病院、他の医療機関とは連携を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	確認書も用意し、重度化した場合の対応、終末期でも家族が希望すれば施設内で看取りができるよう、医療機関と連携し指導を受けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個人の尊厳を大切に、言葉遣いなどにも配慮されている。情報の取り扱いについては厳重に行い、今回のこの調査にも家族にきちんと同意書を取っている等、細かい配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の希望を大切にするようにし、朝の起床なども声がけをしなくても、それぞれ起きてくるようになっている。畑仕事、家事なども積極的に関わって貰っている。高齢な方々なので、職員は無理の無い様に、気を遣っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目視で確認出来た。和気あいあいの中で、できる方は食事作りをし、配膳をし、楽しそうに食事をしている。後片付けも同様である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は昼から夕刻を希望する方が多いが、今までの生活習慣から就寝前に入浴を希望する方もおられるので、対応していきたいと考えており、はっきりした入浴時間は決めていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜づくりを趣味としている方、掃除の好きな方、洗濯物のたたみ方を好む方など利用者の希望による自由な時間を過ごして貰っている。編み物の好きな方は、昼食後、熱心に黙々とやっている姿を見て感動した。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物の時のドライブ、施設周辺の散歩、お花見会など、外部との接触をはかるよう努力している。お酒は原則はだめにしているが、花見などのときは少量ではあるが家族の許可を得て認めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則、玄関等には施錠しないこととしているが、夜間不審者の侵入も考えられるので、夜8時頃施錠しているが嚴重ではない。外の散歩を希望される時は、職員が同伴して出る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の折、消防署の指導を受けながら年2回、夜間を想定して、昼に行っている。法人内松原苑に自主消防組織がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表によりバイタルと合せチェックを行い、異常と思われるときは訪問看護ステーションの看護師の指導をうけている。法人内栄養士の献立チェックも受けている。冷蔵庫内の細菌検査も、常時行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は間接照明になっており、やや暗い感じだが落ち着いた雰囲気である。暖房はFF式の温風ヒーターを使用している。総じて施設内は落ち着いていて、穏やかな感じを受けた。	○	浴室の手すりが不完全と思われた。手すりの取り付けは業者に発注済みで間もなく改善される。風呂場が狭い感じがするが、改善については今後の対応を待ちたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ以外居室に私物の持ち込みは自由であるが、タンス類、衣装ケース、家族の写真程度の持ち込みにとどまっている。	○	居室によっては畳を1~2枚入れているが、段差によるつまづきにより転倒する可能性があるので改善の必要がある。撤去するか、段差を無くすかは、状況により対策を検討されることが望ましい。